

英語 広島大学 (前期)

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

記述式が主で一部客観式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同様に、要約問題、2つの資料を読んで解答する問題、自由英作文が出題されている。

その他トピックス

Ⅲの自由英作文は昨年と異なり設問文中の会話文がなくなった。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「メディアの言語と平和指数の相関関係」 (401 words)	各段落とも指定された字数で比較的まとめやすい文章だった。	標準
II	読解総合	「民間企業による月面探査」 (445 words / 718 words)	2つの文章を照合して解答する問題の該当箇所が、比較的見つけやすくなった。	標準
III	英作文	自由英作文「仕事の未来の変化」	2つの変化を選んで、理由を含めて意見を述べる必要がある。	標準
IV	英作文	自由英作文「音楽媒体の売り上げの変化」	グラフの傾向について説明と分析を行う必要がある。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

要約問題は、英文の性質・制限字数・難易度・形式に応じて書くべき内容を考慮する必要があるため、過去問題などを多く解いておくことが必要。なお、制限字数が変化する可能性もあるため、同じ英文について異なる字数で解答を書く練習もすると良い。長文読解問題は該当箇所を見つけ、訳出し、さらに簡潔にまとめる問題を多く解いておくこと。また、複数の英文を読み比べる練習も必要。自由英作文は、「意見論述」「図表の説明」など様々な形式で練習を積んでおくことが望ましい。